

# 令和元年6月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km<sup>2</sup>)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,537	8,855	4,522	4,333	△ 9	△ 7
2 千 石	4,008	6,802	3,395	3,407	△ 7	△ 14
3 内 山	5,707	7,852	4,160	3,692	33	36
4 大 和	3,430	6,736	3,319	3,417	7	10
5 上 野	7,338	15,412	7,656	7,756	△ 9	△ 20
6 高 見	7,401	13,498	6,452	7,046	△ 13	△ 1
7 春 岡	6,924	10,962	5,765	5,197	△ 13	△ 25
8 田 代	11,554	22,039	10,622	11,417	△ 13	13
9 東 山	10,442	19,580	9,661	9,919	23	40
10 見 付	4,415	8,138	4,078	4,060	29	18
11 星ヶ丘	3,528	6,901	3,133	3,768	△ 10	△ 3
12 自由ヶ丘	3,520	7,159	3,262	3,897	6	15
13 富士見台	6,472	15,349	7,133	8,216	△ 17	△ 30
14 宮 根	3,821	8,241	3,927	4,314	△ 7	△ 10
15 千代田橋	3,654	8,434	3,963	4,471	△ 1	△ 3
千 種 区 計	87,751	165,958	81,048	84,910	△ 1	19
H30.6.1	87,339	166,251	81,291	84,960	81	148
対 前 年 比	412	△ 293	△ 243	△ 50	△ 82	△ 129
名 古 屋 市	1,115,278	2,325,918	1,148,825	1,177,093	1,099	1,125
愛 知 県 ( H31.5.1 )	3,228,136	7,547,239	3,777,531	3,769,708	13,541	11,632

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	97	124	△ 27	986	940	46

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118		
平成2年	156,478	平成22年	160,015	これまでの最少人口	
平成7年	148,847	平成27年	164,696	146,727 (平成11年4月1日)	

注) 世帯数と人口は、平成27年国勢調査結果確定値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

## 千種区の年齢3区分別人口の概況

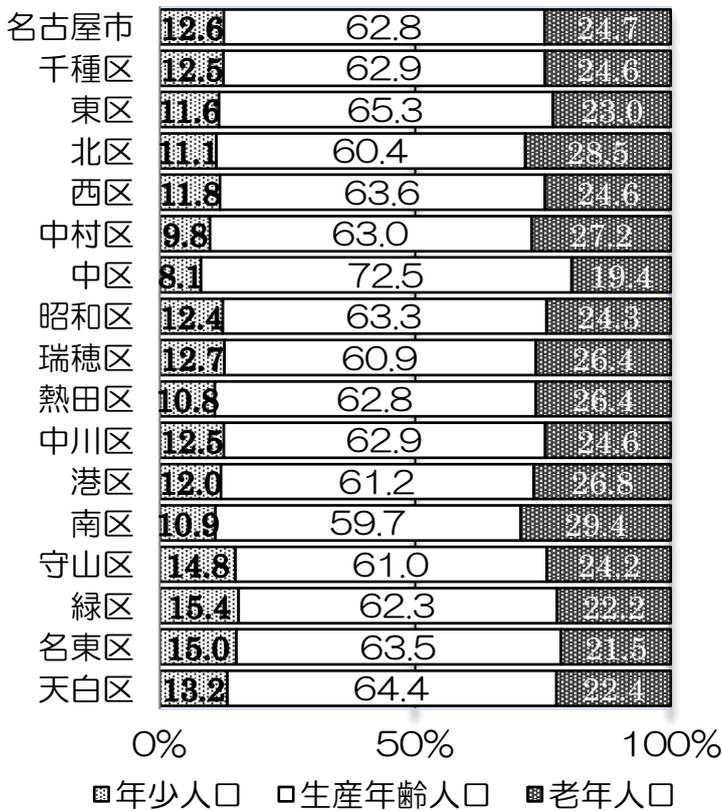


図1：区別年齢3区分別人口比率（平成30年10月1日現在）

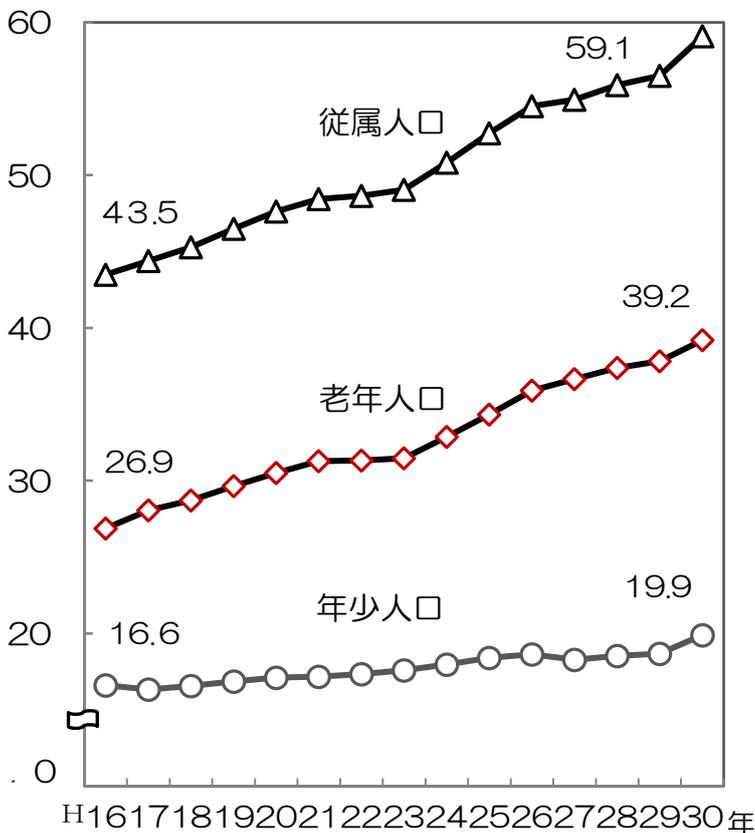


図2：千種区の年齢構成指数の推移（各年10月1日）

今回は、まず、千種区の年少人口（15歳未満）、生産年齢人口（15～64歳）および老年人口（65歳以上）の比率についてみてみます（図1）。

名古屋市全体および各区の平成30年10月1日現在の年齢3区分別人口比率をみると、年少人口比率は緑区が15.4%と最も高く、千種区は12.5%で16区中7位でした。

生産年齢人口比率は中区が72.5%と最も高く、千種区は62.9%で16区中9位でした。

老年人口比率は南区が29.4%と最も高く、千種区は24.7%で16区中7位でした。

千種区の3区分別人口比率は名古屋市の比率とほぼ同じとなっています。

次に、千種区の年齢構成指数の推移をみてみます（図2）。年少人口指数および老年人口指数は、生産年齢人口100人が年少者または高齢者を何人支えるかを示すものです。また、従属人口指数は、年少人口指数と老年人口指数を合計したものです。

千種区の平成30年の年少人口指数は19.9、老年人口指数は39.2で、上昇傾向が続いているものの名古屋市全体を下回り（それぞれ20.2、39.3）、16区中の高い方から7位と8位となっています。また、千種区の平成30年の従属人口指数は名古屋市全体（59.3）を下回っているものの、平成23年以降の急激な老年人口指数の上昇に伴い59.1まで上昇しています。これは16区中の高い方から8位となっています。